



まえむきに
ひたむきに
純情産地
いわて

5〜7月号では、ブランドプロミス制定の背景と込められた意味について、8〜9月号では、取引先を訪問し本会の取り組みについて特集しました。今月号では、若手職員向けに実施したブランドプロミスワークショップについて紹介します。

ワークショップ1回目

1. ワークショップの説明
2. 入会からこれまでの振り返り
3. ブランドプロミスの背景、意味の説明
4. ブランドプロミスと自身の業務との関係性を考える

ブランドプロミスワークショップ

令和3年にブランドプロミスを制定してから、5年が経過しました。入会5年未満の職員が制定の経緯や意味について理解を深めることで、ブランドプロミスを身近に感じ、業務を進めるうえでの基礎とすることを目的に「ブランドプロミスワークショップ」を開催しました。各部門から1名ずつ合計6名の職員をメンバーとし、2回のワークショップと、取り組み成果としてCMナレーションをそれぞれに考えてもらい、自らの声で収録し、実際にCMとして放映することとしました。

特集

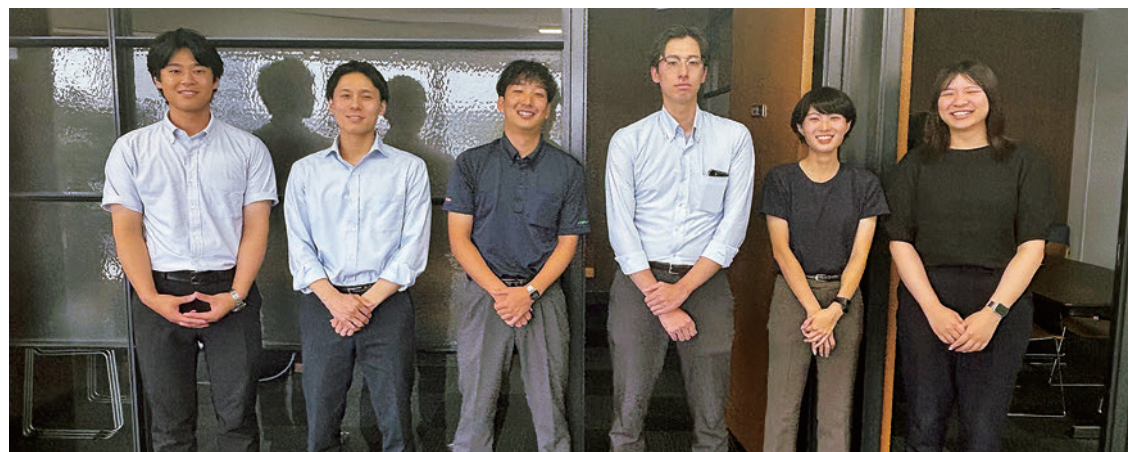
純情産地いわてブランドプロミス

Vol.4

ドプロミス制定までの背景や経緯について理解を深め、県本部におけるブランドプロミスの位置づけや、ブランドプロミスと自分の業務との関係性について考えることをテーマに実施しました。

参加メンバー

・管理部	純情ブランド推進室
・園芸部	生産振興戦略室
・米穀部	米穀販売課
・営農支援部	営農支援課
・生産資材部	物流・DX推進課
・畜産酪農部	畜産販売課
	橋本 千輝
	永友 寛之
	毛塚 雅人
	筑後 恵太
	中村 加菜江
	大山 梨香



左から橋本さん、永友さん、毛塚さん、筑後さん、中村さん、大山さん

参加した職員の意見

入会時にどのような想いがありましたか？

- ・ 自然豊かな岩手県で働きたい
- ・ 食に関わる仕事がしたい

やりがいを感じるのはどのような時ですか？

- ・ 生産者や取引先に頼ってもらえたとき
- ・ 生産者から感謝の言葉をいただいたとき

自身の業務とブランドプロミスの関連性はどうなことでと思いますか？

- ・ 販売促進活動を通して生産者の想いを消費者に伝えていくこと
- ・ 岩手の農業を支える一人であることに誇りを持ち業務に取り組むこと

ブランドプロミスについて印象はどうですか？

- ・ 様々な思いが込められて、とても良いプロミスだと思った
- ・ 「まえむきに ひたむきに」の言葉を、もっと生産者や消費者に広めていきたいと思った



本会で働く職員の声

やりがいを感じるのはどのような時ですか？

- ・ 大きい案件をやりとげたとき
- ・ 生産者や農協から感謝の言葉をいただいたとき

本会の魅力は何でしょうか？

- ・ 食の豊かさや大切さを伝えることができる
- ・ 生産者の想いを消費者へ届けることができる

ブランドプロミスについての印象はどうでしょうか？

- ・ 真面目な県民性を示していて岩手県らしさを感じる
- ・ 生産者・消費者・地域社会へ約束する3つの施策についてわかりやすく示されている



JA全農いわて
YouTubeアカウント

1回目のワークショップを踏まえて、2回目のワークショップでは自身の想いをCMで伝えるため、ナレーション案を検討しました。その様子は11月号で詳しくお伝えします。

なお、収録したナレーションCMは10月から本会公式YouTubeで公開していきますので、ぜひご覧ください。

「純情産地いわて」が目指す「理想像」その3つの柱。

本会は花巻市定住交流センター「なはんプラザ」で「いわてフラワーコンテスト2025」を開催しました。今年は本県花きの主力である「りんどう」「小菊」を中心に160点の出展があり、5日に審査会、6日に一般公開を実施しました。審査会では、草姿や色などの品質、病害虫の影響、切り前や花もちなどの商品性を審査し、最優秀賞には勝又勝男さん（「JA新いわて」の「りんどう 安代」の輝き）が選ばれました。審査委員長を務めた岩手県農業研究センター園芸技術研究部の石川勝規部長は「今年の厳しい気象条件の中でも多数の出品があり、甲乙つけ難い高品質の花が集まった。生産者の方々の力はもちろん、関係者を含めた岩手の花き生産の底力を見た思いがする」と栽培技術の高さを讃えました。



出展された花きを一点一点審査する審査員

IBC岩手放送主催「IBCまつり2025」が、滝沢市のツガワ未来館アピオ（岩手県産業文化センター）で2日間に行われ、20日には、屋内アリーナの特設ステージで「JA全農いわてステージ」が開催され、純情産地いわて応援団長の天津木村さん、2025いわて純情むすめらによる純情産地いわてクイズ大会や岩手の牛乳公式PRキャラクターが参加し会場を盛り上げました。ステージでは、牛乳公式PRキャラクターの名前が投票により「もっぺ」に決まったことが発表されました。ステージ終了後には「ニッポンエール山ぶどうグミ」を先着100名にプレゼントしました。そのほか、屋外付属展示場の「豚経連・牛経連」ブースでは、「いわて牛」と「いわて純情豚」の無料試食と抽選会を実施しました。「いわての牛乳」ブースでは県内で販売されている牛乳の展示や、牛乳の飲み比べ体験を行いました。



IBCまつり2025

岩手県水産会館で、岩手県農林水産部主催の政策提案型調査研究コンテスト「Wild Cup 2025」が2日間にわたり開催されました。本会からは営農支援部、米穀部、園芸部が参加し、園芸部が提案した「廃棄物から未来の農業を創るりんどう残渣を活用したバイオスティミュラント資材の開発について」が関係団体・連携協働部門賞を受賞しました。生産量日本一を誇る岩手県りんどうのさらなる生産拡大に向けたアプローチとして、スマートりんどうの取り組みや、バイオスティミュラント資材の普及拡大について発表しました。園芸部の佐々木章次長は「この取り組みによって農家の方々は農作物以外の新たな収入や新たな農業資材の選択肢を、岩手県には循環型農業の実践と新しい産業の創出を、日本には持続可能な環境に配慮した農業の解決への一歩としてもらいたい」と話しました。



左から園芸部 佐々木章次長、園芸特産課 阿部広輝、金石鷹宏、武藤舞桜

いわてフラワーコンテスト2025

令和7年9月5日（金）～6日（土）

「つなげる」

いわての農業を継承し、価値を高め、未来へ繋げる。



IBCまつり2025

令和7年9月20日（土）～21日（日）

「ひろげる」

生産者とともに、その想いを消費者の食卓へと広げる。



Wild Cup 2025

令和7年8月6日（水）～7日（木）

「根を張る」

地域社会の一員として、強く根を張る。



全農岩手県本部では県内の3つのJAとともに令和7年度から「持続可能な営農プロジェクト」を立ち上げました。令和9年度までの3年間、本プロジェクトに取り組みます。

1. 目的

- ・新規BB肥料による収量増の検証
- ・バイオスティミュラント資材（エンビタ）の育苗中施用による収量増・品質安定の検証（図2）
- ・開水路専用自動給水機（アクアポーター）による水管理省力化の検証



営農支援部 営農技術課 藤原 靖史

TRY! 営農支援リポート

生産者と共に奮闘する 営農支援部の活動をリポート

「持続可能な営農プロジェクト」の取り組みについて

高かった技術のさらなる検証や新しい技術の実証を行い、技術の普及と推進を図ります。

2. 実証方針

本プロジェクトでは、県内3つの経営体を「実証拠点」とし、スマート農業技術や、高温下での品質向上が期待される新資材（バイオスティミュラント資材等）などの実証を行います。

3. 令和7年度の実証状況

実証拠点の経営体から経営・栽培上の課題を聞き取りし、実証内容を協議・決定しました。現在実施している主な実証内容は次のとおりです。

（1）水稲

・ザルビオの地力マップを使用した田植え同時可変施肥による収量増の検証（図1）



図1 KSAS×ザルビオ連携可変施肥田植え



図2 育苗箱への噴霧器でのエンビタ散布



図3 トップスコア・リンの大豆開花期ドローン散布

- ・水持ちの悪い水田における雑草防除体系の検証
- （2）大豆
- ・てんろ石灰の耕起前散布および液状垂リン酸肥料（トップスコア・リン）の開花期散布による黒根腐症軽減の検証（図3）

4. 技術の普及と推進方針

実証成果はJA・関係機関と共有し、普及を図ります。また、研修会やセミナー、広報誌、SNSを通じて生産者の皆様に情報発信します。生産者の皆様の課題解決の一助となるよう尽力して参りますので、実証成果を楽しみにお待ちください。

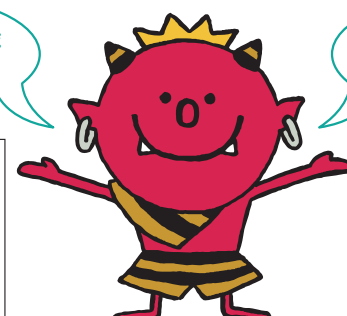
JA全農いわて公式YouTubeチャンネル
【Let's Try!! いわて営農チャンネル】

LINE公式アカウント
【JA全農いわて営農情報】

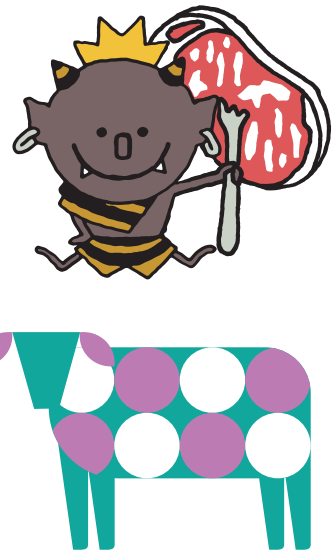
チャンネル登録
お願いします！



友だち登録
お願いします！



国産を食べて応援キャンペーン



農業現場では、肥料、家畜のエサ、燃料などの生産資材や流通にかかるコストの高騰が続く一方で、それらの増加分が農畜産物の価格に適正に反映できておらず、生産者が大変な苦境に立たされています。そうした中、JAグループでは、「国民が必要として消費する食料はできるだけその国で生産する」という「**国産国産**」という考え方を提唱し、国連が定める「世界食料デー」に合わせ、10月16日を「国産国産の日」として制定しました。

国産国産（こくしょうこくさん）とは
農業現場では、肥料、家畜のエサ、燃料などの生産資材や流通にかかるコストの高騰が続く一方で、それらの増加分が農畜産物の価格に適正に反映できておらず、生産者が大変な苦境に立たされています。そうした中、JAグループでは、「国民が必要として消費する食料はできるだけその国で生産する」という「**国産国産**」という考え方を提唱し、国連が定める「世界食料デー」に合わせ、10月16日を「国産国産の日」として制定しました。

産地直送通販サイトのJAタウンでは10月1日から11月30日までの「JAグループ国産国産月間」にあわせ、継続的に国産農畜産物を購入してもらうことを目的に「**国産を食べて応援キャンペーン**」を実施します。キャンペーン期間中、対象商品のお客様の送料負担はございません。

※キャンペーンは途中で終了する場合があります。

JAタウン いわて純情セレクト 産地直送 通販 お取り寄せ



いわて牛切落とし (1kg) 250g×4パック

いわて牛は東京食肉市場で開催される全国肉用牛枝肉共励会において、全国最多11回の日本一に輝いている日本最高級のブランド牛です。

いわて牛1kgを使いやすいよう、250gの冷凍真空パックに小分けしました。

商品コード：2103-02-09



岩手のローストビーフ 食べ比べセット

ジャパンフード・セレクショングランプリ受賞。いわちく独自の「肉汁閉じ込め しっとり製法」で、美味しい肉汁をしっかりと閉じ込め、お肉の旨みを最大限に引き出した逸品です。霜降りの「いわて牛」と赤身の「いわて短角牛」。岩手を代表する2つの牛肉の風味と旨味をギュッと閉じ込めました。

商品コード：2103-5

各事業部の取り組み

各事業部における活動を紹介します。今回は米穀販売課の「いわて純情米」のプロモーション展開についてです。

米穀販売課の取り組み

「令和の米騒動」以降、世間からのお米に対する注目度が非常に高まっています。米穀販売課では、JAいわてグループ一体となったPRの実施により、「いわて純情米」の認知度向上・販売促進に取り組んでいます。

「いわて純情米」アンバサダー 菊池雄星投手

MLB ロサンゼルス・エンゼルス所属の菊池雄星投手を起用したCM・ポスター等を展開しています。コンセプトは「此処から、強くなるために」。岩手県から世界へ飛び出し活躍する雄星投手の姿が印象的なCMとなっています。

「岩手県オリジナル品種に特化したPRの取り組み」

本会や岩手県などで組織する「いわてのお米ブランド化生産販売戦略推進協議会」では、県オリジナル品種の記念日「銀河のしずくの日（4/29）」「金色の風の日（5/29）」を制定し、4/29～5/29の期間を「いわて純情米消費拡大月間」として毎年PRを行っています。

今年は新たなオリジナル品種「白銀のひかり」のデビューも控えており、ブランド米のPRにますます力を入れてまいります。

「白銀のひかり」デビューイベント

日時：令和7年10月26日（日）15:00～（予定）

場所：パルクアベニュー・カワトク1階 I S A I PARK

ご来場のお客様に「白銀のひかり」300gとオリジナルポストカードをプレゼント！

※先着順のためなくなり次第終了となります。



「いわて純情米」アンバサダー 菊池雄星投手を起用したTVC

米穀部公式X

X(旧Twitter)にて、キャンペーン情報などを発信中！

いわて純情米【公式】JA全農いわて



@zennoh_iwate



4/29(「銀河のしずくの日」)JR盛岡駅でのおにぎり配布イベント

いわて純情米アンバサダー 菊池 雄星

此処から、強くなるために

いわて純情米

金色の風
KONJIKI NO KAZE

銀河のしずく
Ginga no Shizuku

いわて純情米
ひとめぼれ

編集後記

盛岡で開催された花火大会に行きました！打ち上げられる花火は会場で流れている音楽とシンクロしていて迫力がありました！屋台の食べ物もとても美味しかったです🍴（嶋中）

KLARA

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかになるという願いが込められています。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA全農いわて 純情ブランド推進室
JA全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8629 FAX019-626-8634
<https://www.junjo.jp>